

第4回

吉備人出版 30周年記念

「ほんとまち大賞」 大賞決定

本
で、
残
そう。



『心のスプーンで日常の機微をすくい上げる』

片山ひとみ（岡山県備前市）

吉備人出版設立 30 周年記念 第 4 回「ほんとまち大賞」 最優秀賞に片山ひとみさん

吉備人出版では設立 30 周年記念「ほんとまち大賞」の作品募集を行い、このほど最優秀作品を決定いたしましたのでお知らせいたします。

第 4 回ほんとまち大賞

作品名 『心のスプーンで日常の機微をすくい上げる』

著者名 片山ひとみ（岡山県備前市）

第 4 回「ほんとまち大賞」には県内外（国外を含む）59 人、75 作品の応募がありました。この応募数者数と応募作品数は、いずれも過去 3 回に比べ最も多数でした。作品内容は、エッセイ、自分史、小説、評伝など多岐にわたり、今回はとくに小説作品が多数集まりました。いずれも充実した内容で、4 回にわたっての選考会を行い、最優秀作品を決定いたしました。

受賞作の『心のスプーンで日常の機微をすくい上げる』は、「書くこと」をテーマにしたエッセイ集です。

自身を「田舎の主婦」と表現する著者は、日々の生活に焦りや虚しさを感じるなかで、新聞への投稿から書くことをスタート。以来さまざまなコンテストにエッセイを応募しつづけて多数の受賞を積み重ね、現在では 4 つの文学賞の審査に携わるようになりました。文章の書き方についての講演を依頼されるまでになった著者の、「書くこと」を通して世界が広がったという実体験、得られた喜びが、あかるい文章に綴られています。

個人の体験記にとどまらず、これまでの受賞作を例にとりながら、書き方の具体的なノウハウ、賞への応募に挑戦する際のポイントなど、書くことをより深く楽しむためのエッセンスがまとめられており、著者の「書くこと」への情熱、書きたい人へのエールが詰まっています。

この大賞作品は 2025 年中に刊行予定です。